

## 取組の結果・効果

●児童が図書館運営に積極的に関わることができる環境の整備

選書や図書館行事への参加により学校図書館＝「自分たちの図書館」という意識を持つ児童が増加し、学校図書館への参加意識向上や平均読書冊数などが増加。

< 1ヶ月平均読書冊数 >

(単位：人)

冊数 年度	0	1～2	3～4	5～10	11～	欠席 無回答	合計
H29	1	46	61	93	183	5	389
H28	12	46	50	108	163	9	388
増減	△11	±0	11	△15	20	△4	1

< 学校図書館貸出冊数 >

・全校貸出冊数（平成 29 年度 4 月～2 月） 17,782 冊

・児童 1 人あたり貸出冊数 45.7 冊

（「仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）」の成果目標「市立小・中学校の学校図書館貸出冊数（1人あたり年間平均貸出冊数）」37冊を上回る）

●授業支援・図書館活用型授業づくりの実施

図書部と連携した授業づくり，教室の読書環境整備など，担任教員の意識向上につながる。

●保護者への啓発活動による読書習慣確立

授業参観で学校図書館を活用するなど保護者に対する読書指導の実態紹介や啓発などを行うことにより，学校図書館の活用や「家読」に対する保護者の関心が高まり，学校図書館開放への要望や児童と共に貸出利用をする保護者が増加した。

## 取組を振り返って

保護者・教職員・地域の方々が連携・協力し，それぞれの立場で児童の読書環境を整え，読書刺激を与え続けることで，児童が自然と図書館を利用し，読書を楽しむことができている。児童の身近に常に本があり，適切なタイミングでよい本が提供され，読書を楽しむ大人の姿を目にすることがよりよい読書習慣の形成につながっていると思われる。特に，保護者の子どもの読書への理解・関心を高めることが，将来にわたる読書習慣の形成に重要であると考えている。情報提供や「家読」の推進，図書館開放など，保護者を巻き込んでの読書活動の推進に努めたい。

また，児童が学校図書館を「自分たちの図書館」と感じていることも学校図書館を活性化させるための大きな要因となっている。学校図書館の主役は児童であり，主役としての意識を高めるために今後も様々な工夫をしていきたい。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 図書館運営に参加できる工夫や，図書館について日々情報発信をすることにより，児童や保護者がより図書館を身近に感じることができるようにすることで，図書館活用や読書に対する興味関心を引き出している。
- 教員に対する図書館活用啓発も積極的に実施して教員の意識向上に取り組み，学校における図書館の位置づけの確立を図っている。



# 図書だより

将監小学校図書館

No.9

2017年9月27日(水)

がっき ぜんこういっせい  
2学期から全校一斉スタート!

## ノーゲーム・ノースマホ・<sup>うちどく</sup>家読デー 10月は13日(金)

つか す  
スマホの使い過ぎで、  
べんきょう  
せっかく勉強したことが<sup>のう</sup>脳か  
き  
ら消えちゃうんだって?!

べんきょう つか のう  
スマホを勉強に使っても、脳は  
はたら  
働いていないんだって?!  
いぞんしょう しんばい  
ゲームやスマホの依存症も心配。

こころ せいちょう のう はったつ どくしょ  
心の成長にも、脳の発達にもいいのは「読書」。  
かぞく どくしょ たの うちどく こころ のう  
家族もいっしょに読書を楽しむ「家読」は、心と脳  
を  
そだ  
育てるのにとってもいいんだって!!



まずは月に1回。ゲームもスマホも使わない約束を守りましょう。全校一斉ですから、  
ともだち あそ うちどく おんどく  
友達とゲームでは遊ばないし、ラインやメールもやりません。「家読」をしたら、音読カ  
ード(家庭学<sup>かていがくしゅう</sup>習<sup>らん</sup>カード)のチェック欄におうちの人からサイン(印)をもらいましょう。  
かぞく はな どくしょ たの  
本について家族と話す、読書がもっと楽しくなるよ!

## 本当にこわい ゲーム・スマホの使い過ぎ

「仙台市標準学力・学習状況調査」の結果を長年調べた結果、ゲームやスマホとの使い方を考えること、読書をするのがとても大事であることがわかりました。また、将監小学校でもかなりの時間スマートフォンをしていたり、宿題よりゲームを優先にしたりしている人も多く、心配な状況です。成績が下がる、やる気が出ない、スマホやゲームがないと不安、イライラしやすい、生活リズムが乱れている・・・友達とのトラブルに発展する心配もあります。

スマホやゲームとの付き合い方を考え、自分でルールを作って守ることが、自分の健康と将来を守ることにつながります。

一人では続けることが難しいことでも、みんなでやればできそうです。まず、月に1回、ゲームもスマホもやめて「家読」をしましょう。慣れてきたら、月に2回、週に1回と増やしていくのもいいですね。



## 「家読」とは

家族で同じ本を読んで、感じたことを話し合うのが家読です。家読をすることで、家族で話をする時間ができ、家族の絆が深まります。

「本を読むと心が旅をする」

「本は心の栄養」

と言われます。読書を通して様々な知識を得るだけでなく、いろいろな人の立場で考える力、人を思いやる心も育ちます。想像力や創造力をみがくきっかけにもなります。これらは、一人で読書体験を終わらせるより、だれかと共有し、話し合うことでより効果が高まります。ぜひお子さんと一緒に本を間に、夢や生き方について話し合ってみてください。お子さんが夢や目標を見つけるきっかけになるかもしれません。

忙しい毎日ではありますが、一緒に本を探す、お子さんの読後の感想を聞くなど、一緒にできることをやってみてください。

保護者の皆様  
ご協力をお願いします



音読カード等  
へのサインを  
お願いします。

「家読デー」の欄に、お子さんが家で読書をしたらサインをお願いします。

\*教科書、学習漫画、ゲームブック等は除きます。

\*絵本・物語をおすすめしますが、読書が苦手なお子さんには図鑑や写真絵本などをすすめてみてください。高学年だからこそ味わえる絵本などもいいでしょう。

## ◆ 実施目標 ◆

協働型学校目標「年間で本を40冊以上読む子を育てる」の目標達成率80%以上を目指す。

### 読書の課題

- 協働型学校目標「年間で本を40冊以上読む子を育てる」の、平成28年度の目標達成率が70.9%であった。

### 取組内容

#### ●校内選書会の実施

学校公開日に全校児童による選書会を実施し、保護者にも参加を呼び掛け、児童に読ませたい本を募った。



校内選書会での保護者希望本「親子読書にどうですか?」と配架



親子読書で読まれた本の展示

#### ●親子読書の実施

##### <「親子読書の日」>

多ジャンルの本に触れることや読書の楽しさの実感を目的に、毎月最終日曜日を親子で同じ本を読む「親子読書の日」に設定し、全家庭に取組を呼び掛けた。

##### <放課後の図書室開放>

読書の場と機会を増やすとともに、保護者の来校を促した。

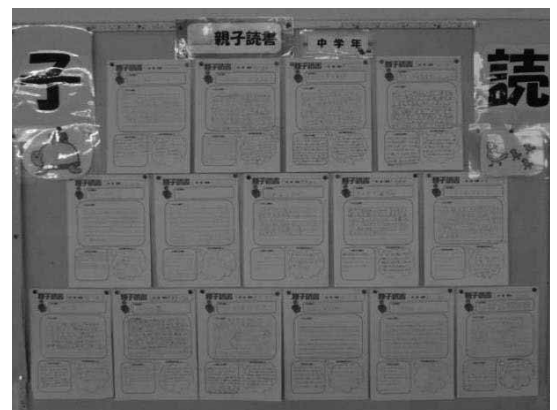
#### ●購入図書を活用

##### <「親子読書コーナー」の設置>

図書室内に設置し、校内選書会で保護者から選ばれた本を配架。

##### <図書を通じた交流>

夏休みに全校で取り組んだ「親子読書カード」を、図書だよりで紹介したり、図書室前に掲示したりすることで、感想を共有した。また、親子読書で選んだ本のコーナーを設置し、互いに手に取れるようにした。「図書委員のおすすめ本」「先生のおすすめ本」など選書の交流コー



夏休み親子読書カードの掲示（図書室前）

ナーも、年間を通じて行った。

#### <「読書貯金」の取組>

全校で「読書貯金カード」に取り組み、6年間の読書の記録を積み重ねている。また、続けて読む楽しさを味わえるよう、「シリーズ本を読もう」を企画した。シリーズ本に目印のシールを貼って配架し、読破カードやしおりを活用したことで、貸出が増加した。

#### <学級・学年文庫の整備>

廃棄本や泉図書館譲渡本を有効活用し、各教室で自由に手に取れる本を配架。



除籍本・譲渡本の有効活用（学年ワゴン）

#### ●公共図書館の活用

学校連携事業による朝読パック（年4回）やランプの会（読み聞かせボランティア）の活用。

### 取組の結果・効果

- 協働型学校目標「年間で本を40冊以上読む子を育てる」の達成率71.3%と、前年度と比較して0.4%増加。
- 親子読書により、3ジャンル3冊以上を読んだ児童の割合が全体の57%となった。また、親子のコミュニケーション機会の増加にもつながった。
- 読書環境の整備や家庭での読書の関心の高まりなどにより、不読率が0.9%と低くなった。

### 取組を振り返って

- 親子読書の継続的な呼びかけや「夏休み親子読書カード」の記入などによって、親子で一緒に本を手にとったりコミュニケーションの機会をもったりする啓発になったと思う。今後も呼びかけや配架の工夫を行って、さらに発展させていきたい。
- シリーズ本読破を促す取組は子どもたちの読書意欲を促すのに効果的であった。「読書貯金カード」の積み重ねにより、年間40冊読む子が増えてきている。
- 今年度も公共図書館との連携事業を継続している（朝読パック・ランプの会・譲渡本譲り受けなど）。様々な本を手にとる機会を増やすことは、ジャンルの幅を広げることにもなると考える。今後も継続していきたい。
- 様々な取組は、図書事務員の方々の工夫や努力、図書ボランティアの方々の存在に支えられている。今後も感謝の気持ちで、連携を大切にしていきたい。

### ◆ 注目 POINT ◆

- 親子読書を促進する取組に力を入れており、親子のコミュニケーションの増加や、保護者と読書をすることにより、児童がより多くのジャンルの本を読むことにつながっている。
- 読書量の見える化や、イベント性の高い企画などの実施による工夫した呼び掛けを行い、読書意欲の向上を図っている。
- 公共図書館や読み聞かせボランティアなど、他の関係機関や団体と連携・協力して読書活動の推進に努めている。

# 七郷中学校

【生徒数：465人】

(H29. 5. 1 現在)

## ◆ 実施目標 ◆

国語以外の教科において、図書資料及び図書館にある視聴覚資料を活用した授業を構想・実施し、「主体的で対話的な深い学び」の実現を目指す。

### 読書の課題

- 時数確保のため朝読書の時間が削られ、本に親しむ時間の確保が困難となっている。
- 図書館活用の視点を持った授業が少ない。

### 取組内容

- 社会科（地理的分野／2年生）

「世界の国々」・「国際理解に役立つ世界の衣食住」を購入し、蔵書のある他のシリーズと併せて世界の諸地域に関する調べ学習に活用し、レポート発表を実施。

- 英語（1年生）

購入した名作絵本（英語版）の中から、教科書本文のテーマ及び学習した文法事項が使われている英文の含まれる作品を選び、継続的に読み聞かせを実施。



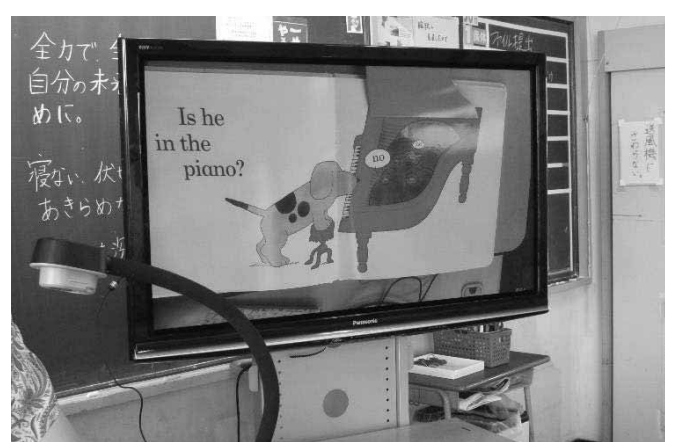
実物投影機を用いた絵本の読み聞かせ①



購入した名作絵本（英語版）



実物投影機を用いた絵本の読み聞かせ②



実物投影機に映し出された映像